



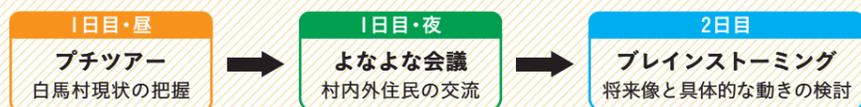
2016.8.6-7.
白馬キャラバン

白馬アイデアキャラバン便り

HAKUBA IDEA CARAVAN LETTER

アイデアキャラバンについて

白馬村では現在、今後10年間の村づくりの指針となる「白馬村第5次総合計画」のうち、前期5年間の基本計画の策定を進めています。2015年度から将来の村づくりについて意見交換をしてきました。今年度は「アイデアキャラバン」というかたちで、白馬村や東京にて、多様なアイデアを村内外の人たちと意見交換してきました。最終となる今回は、白馬村にて1泊2日形式で、具体的な将来像とそこに向かって自分たちには何ができるかを考えました。村外からのご参加も多数あり、基本構想で掲げた白馬の「多様性」や「学びあい」が現れる2日間となりました。



策定状況について

総合計画は、今後10年間の村の基本方針となる「基本構想(2015年3月議会承認済み)」と具体的な動きを示す「基本計画」から成ります。基本構想のテーマを「白馬の豊かさとは何か - 多様であることから交流し学びあい成長する村-」としました。白馬には、四季折々の自然の美しさ、伝統保存地区、観光地としての資源など多様な豊かな環境があります。これからも白馬の豊かさを問い続け、多様性を活かしながらも、変化の激しい社会状況をみんなで考えて、学びあいながら生きていくという想いが込められています。初日には、現状の計画書案を配布し、参加者の皆さんに確認をお願いしました。



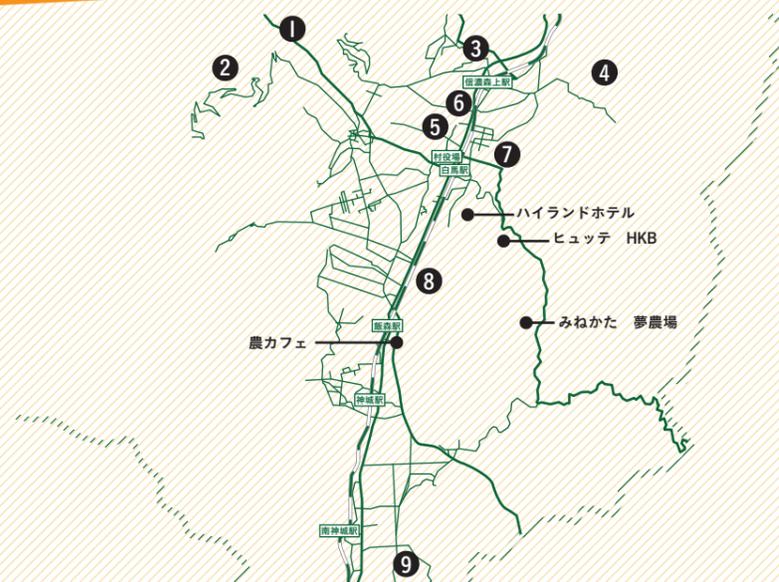
1日目 フィールドワークを通じて具体的な取組みの芽を探りました

1日目は、参加者同士で白馬のイメージを共有することを主目的に、各チームで決めたテーマ(地域自治・教育・交流)に沿って、チームにわかれてプチツアー(フィールドワーク)と称して村内を見てまわりました。ツアーでは、白馬村民が中心となり村の魅力や課題、各地区の取組みについて説明し、白馬村独自の特徴を体感しました。



アイスブレイク:自己紹介の様子

白馬をめぐるプチツアー



白地図に発見したことをまとめました

ツアー終了後、会場にもどってきて白地図に各地で気づいた魅力や課題を議論しながら記入していきました。村民として改めて感じたことや、村民でもいってなかった場所での気づき、村外からきた人の視点など様々な角度から白馬のいまを見直しました。



各チームからの発表

地域住民の自治によって保たれている自然景観【地域自治チーム】



大出の湧水や、野平を見てきました。外から来た人にとっては、美しい自然も、実際には地域の人たちの努力あってこそその景観なのだということがわかりました。昔は、子どもたちの仕事として保っていたのですが、年々子どもが減り、いまでは大人の役割になっているそうです。また、観光客が増えることで、地域住民が自治してきたものも崩される懸念もあるため、ルールづくりの必要性を感じました。

豊かな環境を活かした教育と情報発信【教育チーム】



しろま学舎や北尾根高原、姫川源流などを見てまわり、山や川、公営塾など、改めてよい生活ができる村だと認識しました。都会と違って、当たり前のようにある自然は、子どもたちの豊かな心を育てられる場だと思いました。一方で、教育に対する情報発信は不足しているように感じます。いま9,000人いる人口を維持するには、地域住民が楽しんでいる様子を、画として発信していく必要があるといったことを話しました。

交流の場となるリアルプラットフォーム【交流チーム】



白馬村には多くの面白い人がいます。しかし、こういった人たちが交流できる場が中々ありません。ツアー中に「いまは閉鎖されているスキー場も上まで登れば絶景が見れる」といったことを聞いたが、交流の場ができれば、こういった場も再度注目をあびるようになるのではないかと思います。健康やおいしい食べ物、価値の共有などテーマを設けて話し合えるような場になればといったことを意見交換しました。

1日目の講評

studio-L 醍醐氏より



地域自治チームの発表であったように、人の手が入っているところにはどこにでも価値があって、自然や文化をどう守っていくかという「ルールづくり」に課題があります。この場のようにみんなでつくっていくやり方もあると思います。教育チームの、豊かな心を育てるといのは重要ですし、交流チームの出会いにも繋がる要素だと思います。白馬に限らずこれからの時代、居住人口を増やすのは難しいです。基本構想でも謳ったように、「学びあう」というのがキーワードとして現れましたね。

ポイント よなよな会議を開催し、村内外の交流を深めました。

アイデアキャラバンの夜は長い！ということで、会の終了後は、白馬のおいしい食事を食べながら、集まった人同士で、これからの白馬についてざっくばらんに話しました。



2日目 未来の白馬村に必要な具体的な取組みを考えました

2日目は、初日で見えてきた課題をもとに、これからの白馬村に必要なと思う具体的な取組みについてのワークを行ないました。また、晴天に恵まれたのでジャンプ台前の広場に出て、チームビルディングを兼ねた簡単な演劇を行ないました。

チーム分け

1日目に気づいたことをもとに、これから自分がやってみたいと思うことを一人ひとり発表しました。その結果、同じ興味関心をもった3つのチーム(暮らし・食・交流)ができました。



チームビルディング

最終日に楽しく意見交換ができるように、ジャンプ台前にて各チーム、お題に沿った演劇をし、何をしているかを当て合いました。白馬村一暑い日になりましたが、暑さに負けず盛り上がりを見せました。



ブレインストーミング

※ブレインストーミングとは、集団でアイデアを出しあうことでお互いの発想を誘発すること

①自分が考える「豊かな生活」②そのために行える具体的な取組み③自分にできることを各チームでブレインストーミングしました。

【表の見方】

太字=自分が考える「豊かな生活」

右=具体的な取組み 左=自分ができ

アイデア アイデア

●もっと交流・出会いの場を生み出したい

具体的な取組み	自分ができ
マルシェ・イベントの定期開催	・売り子やります
交流会の定期開催	・東京から見た魅力を話せます ・告知宣伝します

●自分らしく白馬で暮らせる(=楽しめる)

具体的な取組み	自分ができ
先進的な場所作り	・若者が集う場所作ります
リブランディングが必要	・訪日外客対応に翻訳アプリ活用ができます ・コンセプト、リブランディングできます

●デュアルライフなまちにしたい！

具体的な取組み	自分ができ
ちょっと〇〇したい！(農業・DIY・田舎暮らし)	・田舎暮らしファシリテーターやります ・SNSで拡散の手伝いします
デュアルライフ者の把握 →知る交流→次のステージへ	・デュアルライフ会議を開催します

●子育て世代が住みやすい村にしたい

具体的な取組み	自分ができ
プレ移住体験	・職場でプレ移住企画を相談してみます
田舎の子育ての良さを伝える	・子供がスキーをする良さを伝えます

●白馬暮らしを知ってもらえるようにしたい

具体的な取組み	自分ができ
白馬マッチングアプリ 先輩住民の話を聞ける	・白馬暮らしについて話せます ・人集めできます
移住希望も短期滞在も 体験談が聞ける	・我が家welcomeです ・地元のこと話せます

●「食」を通して白馬の生産者と都会の消費者をつなげたい

具体的な取組み	自分ができ
農家協力のもと農業体験 田植え、稲刈り、野菜作り	・農家としてやります
地元の人もいっしょにBBQ 旅行者×地元民大交流会	・旅行者×地元がつながるハイブリッド 観光ツアー企画やります

2日目の講評

白馬村役場 田中氏より



マルシェという話がありましたが、いまの道の駅はお洒落とは遠くて主婦などの購買層を見ると工夫が必要ですね。白馬で買ったというのがひとつのステータスになるので、野菜などの季節ものは「地産地消」として売り出すのは難しい部分もありますが、白馬ブランドとしてやっていく必要がありますね。教育という面では、いま海外の方が大勢いて、生きた英語を習得できる環境があります。食のアピール同様、教育に関しても、その豊かな環境を発信していかないとイケませんね。

studio-L 醍醐氏より



移住を考えている人と住んでいる人の考えが二極化している課題が見えてきましたね。受け入れる地元側が多様性を担保しつつも、どんな人に入ってきてほしいかを考えないとイケません。一方で、ずっとこの村に暮らし仕事をしている先輩たちの知恵を借りながら、誰がどう仕組みをつくっていくかを考える必要があると思います。また、食という話もありました。食は求心力があってよいコンテンツだと思います。食などのテーマを設定し、個人の繋がりを広げていけば、それが地域の繋がりへと発展していくはずですよ。

交流し実行するためのプラットフォーム

基本構想に掲げた「白馬の豊かさは何か」を一緒に考え、取組みを実行していくために、仲間同士で交流できることが求められています。その際に、個人(村民、外国人、村出身者、村外の白馬ファン)、行政、企業が共同して課題を解決していける場が必要です。今回の総合計画策定にあわせてプラットフォームをつくっていくこと予定しています。また会の終了後に、暫定的に参加者同士が交流するためのFacebookグループ「白馬アイデアキャラバンメンバー」を立ち上げました。

公的
行政

共的
プラットフォーム
行政・個人・企業

私的
個人・企業